





自

此のや梅の枝もけりし  
急し程に都に著て作又そ好む梅と  
己の命を感せんとていふ梅石の  
る又事あるまじけり人  
為るやと思ひぬ此梅と和泉  
式部とせしむ習詠りてもや  
なみくめしむ僧具梅と人の子は

甲

甲

事な何とぞ一糸らせり  
こし作人アたつ子く  
式部とて教トのつれりや右様  
まなりふへし梅の名ハ好又  
又ハ鶯宿梅とていふやへけり  
ぬ人のヤき及るに好むる  
らと此寺の東門院の

和泉式部此梅の道をも新端の梅と

名付けしむれを詠め終ひしや

まが程子ては系花のましに

短も漬涌し臨く縁此に利益を

張るまは是こそツクミ志ふふれ

植ひりしの手を梅にまはす叔ハ

和泉式部れうへたまひし新端の梅

にまはしきろくやまはあけ方丈ハ

和泉式部此は体前まはりの甲

の事し和泉式部乃しとあましを

作里もくは其まはくはに級せ

ぬまあまししゆまわはるハ古

れまをのししや形とや真平

あましとまはるし平の色香



あつしよと夕夕一井乃花れ信子  
木くわてんこくまにかくまを  
えんぬまのくわよもまの  
梅公陰子居てく舞を妙る  
るまよりぬ月れ夜やも子此の  
を讀誦さるく  
やま意あるとく乃法燈やま  
上  
上  
上

讀誦し終ふと辟除ふと思出た  
且圖字ハ多此寺ハ東門位  
の正時法堂ハ周白この門前を通り  
なりし車のうらまは法華經の  
以の品をたしに  
式部はつれうらまは門の外  
玄車のをとまけり  
上  
上  
上







見佛国法乃ハし上順送ハのハえハしハ多ハ  
りハやハまハしハにハ日ハ長ハのハ喜ハ小ハ懶ハらハとハ九ハ夏ハ  
三ハ伏ハのハるハつハたハきハくハ秋ハ来ハにハきハくハをハ暮ハ  
洞ハ在ハ乃ハ松ハれハ風ハ一ハ拜ハのハ秋ハとハもハ又ハ  
何ハ了ハ上ハ求ハ意ハ根ハのハ氣ハとハこハをハ他ハ水ハはハ  
何ハるハ月ハのハ方ハがハ下ハ地ハ底ハ生ハれハあハとハえハ  
東ハ山ハ院ハ陽ハのハ時ハ常ハもハ定ハとハ去ハくハれハ

春ハのハ夜ハのハまハるハのハおハれハ園ハハハ  
あハやハなハいハ梅ハのハ花ハとハ笑ハとハかハくハ祇ハりハ  
やハハハうハくハはハいハ香ハやハちハりハをハほハいハ香ハやハ  
あハかハくハあハいハ空ハやハ色ハはハりハ三ハ音ハアハ  
りハ了ハ昔ハとハふハくハるハやハとハ文ハ子ハ我ハのハ  
あハまハ及ハ我ハあハしハるハあハりハくハあハりハ寺ハ  
あハまハいハとハ寺ハのハ人ハとハくハくハしハとハ取ハしハ

三二一、  
那中さき  
花小根

今多是遊了舞るねは多き少は菓子

ふりそとて本文のやも一匹を火宅

とる於人ハ一室一を菴の下てあ

下和泉式部、少やとく方丈乃

室子入と刃えり曼ハさめり一書

乃美さめり失子とる

